研究推進校事業報告書

＜取組と成果のポイント＞
〇地域の特色を生かし、外部講師を取り入れた道徳教育の推進
　講師を招聘した授業研究会、互いに見合う道徳授業を通して、日頃から職員室で道徳の授業づくりや振り返りについて語り合う様子が見られるようになった。また、思考の助けとなるシンプルで分かりやすい板書づくりを目指し研究した。授業後には、板書の写真を「道徳　学びの足あと」として掲示し、子どもたちが見ながら語り合う姿があった。週１回の「にこにこトレーニング」で培った子どもたちの「関わる力」は授業の中でも生きている。現職教育３部会が教師の授業力と子どもたちの関わる力を高める取組を行うことで、学校教育全体を通して子どもたちの道徳心を育てることができている。
〇家庭・地域との連携による道徳教育の取組
　地域学校協働推進員や保護者などの地域の力を生かした教育活動は、子どもたちに地域のよさやつながりを強く意識させている。関わっている方々に感謝の心を伝えたいと子どもたちから提案された「地域ありがとう集会」は、道徳的実践の場となった。親子道徳の実践では、保護者が道徳の内容項目について一緒に考える機会となった。さらに、道徳通信を通して、学校での道徳教育の取組などを伝えることで、家庭と学校が協力して子どもたちを育てることができた。

１　研究推進校の概要

学　校　名	所　在　地	電 話 番 号	児童数	備　考
みよし市立 緑丘小学校	みよし市三好丘緑 一丁目１番地１	0561(36)8800	361人	

　みよし市は愛知県のほぼ中央に位置する、名古屋市や豊田市に近く暮らしやすい街である。本校は、そんなみよし市に７番目の小学校として平成９年に開校し、今年で29 年目を迎えている。一時期は児童数が 1000 名を越える時期もあったが、ここ数年は350 名程度で推移している。教育に対して熱心な家庭が多く、学校教育への関心が高い。校訓「よく学び　心豊かに　たくましく」のもと保護者、地域住民の理解を得て、令和５年度より学校運営協議会を発足し、地域学校協働活動を推進している。

２　研究課題

（１）地域の特色を生かし、外部講師を取り入れた道徳教育の推進
・外部講師を招聘した「特別の教科　道徳」の授業改善と授業力向上
・地域学校協働活動を生かしながら進める道徳教育
（２）家庭・地域との連携による道徳教育の取組
・地域学校協働活動の実施（地域講師、保護者ボランティアなど）

３　研究主題とその設定理由

よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の充実
－地域の特色を生かした道徳教育の推進－

　本校は、グランドデザインに合い言葉「緑丘小の子どもたちには力がある。」と示し、さまざまな教育活動において、子どもが主体的に取り組む場を設定してきた。級友の「分からない、困った。」を生かして学び合う授業づくり、上級生が範を示し温かく支援する縦割り清掃などの異学年交流に取り組んでいる。また、６年生が総合的な学習の時間に「防災」をテーマとして探究しているため、避難訓練は６年生が中心となって全校の子どもたちの事前・事後学習に取り組んでいる。９月に実施した避難訓練では、縦割り清掃時の避難方法、経路等も子どもたちが判断する取組を行った。１年生の振り返りには、「６年生の人たちが、命の守り方を教えてくれたので、私も６年生になったら、いろいろな人に教えたいです。」という言葉があった。また、学校評価アンケートでは保護者から、「縦割り交流が盛んで、子どもも楽しそうに学校での話をしてくれます。」といった意見をいただくなど、高評価を得ている。

令和７年度に行った６年生を対象とした全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果によると、「自分には、よいところがあると思いますか。」の質問において、「当てはまる」と回答した子どもの割合は５割程度だった。活動は充実しているものの、子どもたちの「自信」に十分つながっていないことが分かった。一方、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。」の質問に対する回答では、「当てはまる」と回答した子どもの割合が、全国・県平均をやや上回っている。学び合う授業づくりの取組に、子どもたちが手ごたえを感じていることが伝わってくる。また、「授業や学校生活では、友達や周りの人を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」の質問に対する回答も、「当てはまる」と回答した子どもの割合も、同様に全国・県平均をやや上回っている。授業や学校行事だけでなく異学年交流、縦割り活動など、人と関わりながら活動するよさを実感していることが伝わってくる。

そこで、子どもたちのよさを生かし、よりよい生き方を実践する力を身に付けるために、様々な研修や実践を通じて「特別の教科　道徳」の授業改善に取り組む。そして、人との温かな関わりの中で育まれた「豊かな心」を、道徳の授業の中で、自分と違う意見と触れ合い、新しい価値観に出合ったり、価値を理解したりしながら磨き上げていく。本校の特色でもある家庭・地域と連携した活動を意図的に道徳の授業と関わらせることで、「人との出会い」「触れ合い」の中で、自信をもち、周りの人たちと関わりながらよりよい生き方を実践する子どもたちを育みたいと考えた。

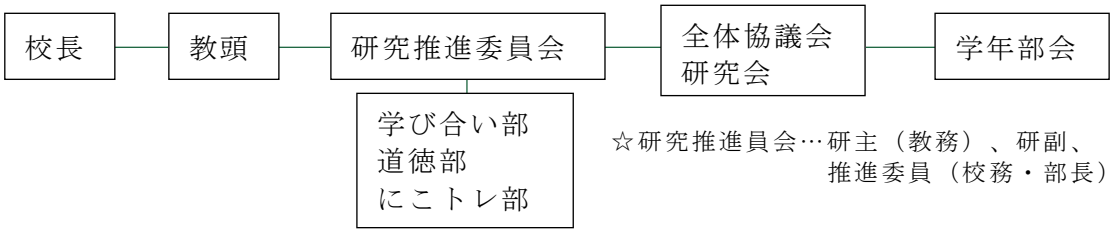
４　研究の概要

（１）目指す子ども像

人との温かい関わりの中で育てる豊かな心
―考え合い、互いを認め合えるみどりっ子―

目指す子ども像に迫るために、道徳教育に造詣の深い外部講師を招聘し、「納得」と「発見」のある道徳の授業づくりの研修を行う。また、地域学校協働活動を生かして、地域の方を講師として指導していただくクラブ活動、ボランティアによる読み聞かせ、農業に取り組む地域講師を招聘した出前授業を実施する。また、異学年交流やコミュニケーション力を高めるＳＥＬ（ソーシャル・エモーショナル・ラーニング）の経験を積み重ねていく。さらには、どの活動にも「子どもによる振り返り」を行い、活動の中で見つけた仲間のよさ、参考にしたい考えを振り返る。それらを子どもたちにフィードバックし、互いに認め合う機会を設定する。

（２）研究組織

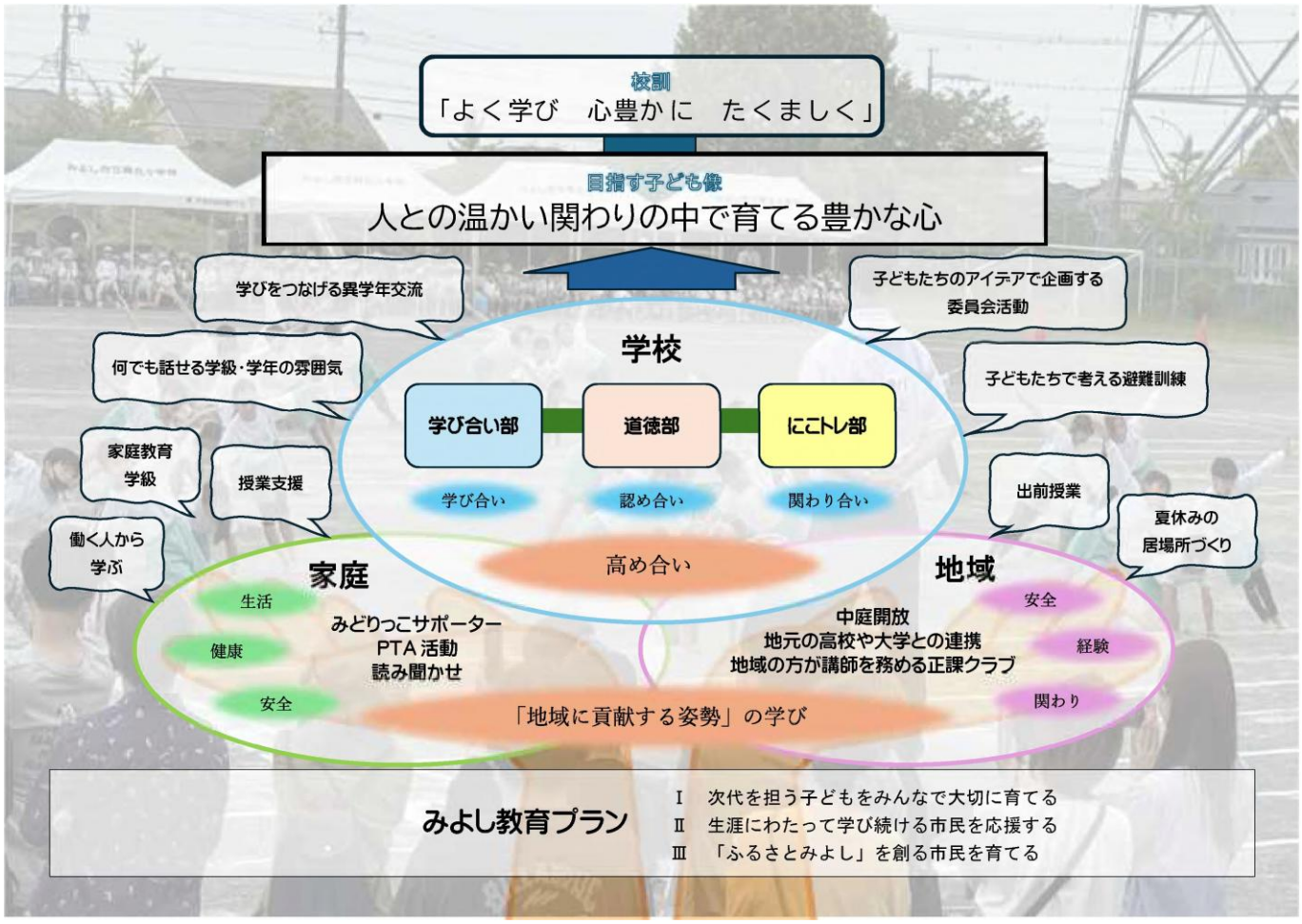


☆研究推進員会…研主（教務）、研副、
推進委員（校務・部長）

部会	担　当　内　容
学び合い部	授業規律等の改善を図り、子どもたちを軸とした授業づくりの研究をする。授業の流れの中で、ジャンプ問題を効果的に導入することについて研究をする。
道徳部	効果的な導入や道徳的価値の解釈等の道徳の授業づくりについて研究をする。
にこトレ部	コミュニケーション能力の向上、人間関係構築を図るための研究をする。

※にこにこトレーニング
毎月ペアやグループで取り組むコミュニケーション力を高める活動。以下、にこトレとする。

（３）研究構想図



（４）研究仮説

・「学びを見通す」「学び合いを生み出す」「学びと学びをつなぐ」授業を行うことで、自分の中にある価値観に気付いたり、新しい価値観や考え方に触れたり理解したりすることができ、心豊かな子どもが育つだろう。

・家庭や地域と連携した地域学校協働活動を展開することで、人と出会い、触れ合う中で自らに自信をもち、周りの人と関わり合いながらよりよく生きようとする心が育つだろう。

（５）研究の手立て

ア　地域の特色を生かし、外部講師を取り入れた道徳教育の推進

＜取組の概要＞

みよし市の小中学校で長く道徳教育の指導を行っていただいている、畿央大学大学院教授　島　恒生先生を年３回招聘し、道徳教育の見識を深め、「特別の教科　道徳」の授業改善についての指導・助言を受けながら授業力向上に努める。また、本校の取り組む地域学校協働活動を生かしながら進める道徳教育について、指導・助言を受け、児童や地域の理解を深める。

＜外部講師の指導内容＞

・「納得」と「発見」のある道徳の授業づくり
・道徳の授業力向上（「中心発問」「補助発問」の工夫等）
・教材理解、児童理解、地域理解
・地域学校協働活動と連携しながら進める道徳教育

＜よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育に係る成果の見込み＞

・地域の方との触れ合いをはじめ、縦割り清掃や集会、６年生主体の避難訓練など校内での活動を通した人との温かい関わりの中で育まれた自分の中の「豊かな

心」に気付ける授業づくりを行うことができる。

・自分たちの中に育まれた「豊かな心」に子どもたち自身が気付くような、「納得」と「発見」のある授業を展開することで、互いに認め合いながら自己肯定感を高めることができる。

イ　家庭・地域との連携による道徳教育の取組

＜取組の概要＞

地域学校協働活動による「地域講師を招いたクラブ活動」「ボランティアグループによる読み聞かせ」「保護者ボランティアによる授業支援」「地域講師による出前授業」「安全保持や環境整備」を実施することで、保護者や地域の方の生き方や考え方に触れたり、多角的な見方で考えたりして、自身の生き方について深く見つめられるようにする。

＜よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育に係る成果の見込み＞

・保護者や地域の方に来校していただく際には、共に活動する機会を設定し、活動の中で対話のできる環境を整える。

・活動の際には必ず「振り返り」を行い、学びの多い振り返りを子どもたち同士が共有することで、学びを広げる。また、学校だよりや道徳だより、学年通信、ホームページ等で紹介し、家庭や地域へ積極的に知らせることで、学校が行う道徳教育について理解が深まり、日常生活の中で道徳性が育まれていくことを期待したい。

５　研究計画

月	実施内容	備考
４月 ５月	・研究概要の策定、研究組織づくり ・校内研究会（研究目標・方法・計画の確認） ・年間学習計画別葉の検討 ・指導案検討会、校内授業研究会①	
６月	・学年部会（７月までの授業づくり） ・意識調査(県教委作成アンケート・本校作成アンケート)	
７月	・校内研修（７月までの振り返り） ・外部講師による授業づくり研究会	外部講師招聘
８月	・学年部会（９月の授業づくり）	
９月	・授業参観（道徳） ・学年部会（10 月の授業づくり）	
10 月	・指導案検討会、授業研究会② ・学年部会（12 月までの授業づくり）	外部講師招聘
12 月	・指導案検討会、授業研究会③ ・意識調査(県教委作成アンケート・本校作成アンケート) ・学校評価アンケート （これまでの授業に関する振り返り） ・事業報告作成 ・市教委学校訪問	外部講師招聘
１月	・道徳教育パワーアップ研修参加 ・事業報告書提出	
２月	・指導案検討会、校内授業研究会④ ・市教務・校務主任研修会での成果発表 ・成果と課題の確認、次年度の計画	

６　これまでの取組と成果

（１）学び合い部の取組

本校では、現職研修として、「学びを見通す」「学び合いを生み出す」「学びと学びをつなぐ」ことで、「学び合い、学びを深める」授業づくりを目指し、外部講師を招聘して一人一実践の研究授業実践に取り組んでいる。今年度は、畿央大学大学院教授　島恒生先生をお招きし、道徳授業づくりにも取り組んでいる。

ア　外部講師（畿央大学大学院教授　島恒生先生）による道徳の授業づくり研究会

７月、島先生を講師に迎え、道徳授業づくり研究会を行った。授業の柱となる「狙い」と「主発問」を設定するための教材分析について、グループワークを行った。全体協議では、「心」「気持ち」「思い」「考え」といった発問の語句の意味にもこだわった話し合いをする姿が見られた。共通の教材でねらいと中心発問を考える中で、教材の解釈や、学年に応じた内容項目の捉えを話し合った。そこで、自分では気付けなかった視点を知ることができ、多角的に考えるよさを実感できた。島先生の御助言からは、めあては問いの形として出すことで、子どもに課題意識をもたせることができ、授業の前後の思考の変化を子ども自身が可視化できることを学んだ。そして、中心発問は「子どもがどう返してくるか」を子どもの言葉で考えることが大切であることが分かった。子どもの発言を先生が言い換えないこと、子どもの意見は全体に返して共通の議題として議論を誘うことなど、具体的な授業テクニックについても教えていただき、９月からの授業に早速生かしていきたいという振り返りをもった。この研修で学んだことを生かし、子どもたちの言葉から議論を展開するために、「どういうこと？」とその子や全体に返すこと、話し合って気付いたことを子どもの手柄とすることなど、子どもの言葉を引き出す授業力と、教材を読み取り、発達段階に沿ったねらいや中心発問からの切り返し発問を設定できる構成力を高めていこうという意欲をもつことができた。

【道徳の授業づくり研究会】

イ　授業研究会

５月に第１回校内授業研究会を行った。今年度、新たに取り組む道徳の授業研究に向け、道徳の授業の在り方を全職員で共有する機会となった。発問の仕方によって、「状況理解」か「思い」のどちらを問うのかが変わってしまうことから、発問の大切さを考えることができた。また、板書や挿絵は理解の補充として活用していかなければならない。言葉の羅列で終わらず、吹き出しの中に書いたり、文字の大きさを変えたり、思考の助けとなるような板書を検討していくことが今後の課題として示された。

【一人一実践の授業研究会】

10 月に第２回校内授業研究会を行った。４時間目に１年生で教材「おふろばそうじ」、５時間目に５年生で教材「住みよいマンション」の研究授業を行った。１年生の授業では、「最後までがんばるとどんな気持ちになるかな。」と発問したが、「最後までがんばるとどんなよいことがあるかな。」にすると、「ほめられる。」だけではなく、「自分がやってよかった。」「もっとやってみたい。」と考えることができるという御助言をいただいた。また、振り返りの場面では、「主人公のような気持ちになったことはあるかな」と問うことで、教材から離れ、自分のこととして考えられると教えて頂いた。発問の言葉一つで、子どもたちの思考の流れを変えてしまうことが分かり、しっかりと吟味していきたいと感じた。５年生の授業では、「教師も一緒に考える。」姿勢が大切であると教えていただいた。板書は思考の場であり、授業記録ではないという言葉は、

新たな気付きを私たちに与えていただいた。子どもたちの言葉を一つ一つ拾い、ネームプレートと共に板書していた本校の方法そのものを見直していきたい。また、ねらいとする道徳的価値を授業者がしっかりともっておくことの重要性を改めて教えていただいた。それを明確にしていないと、授業のねらいがぶれてしまい、考えさせたい価値項目にたどり着けないこともあると分かった。どの学年でも、授業規律や発言の話型を越えて本音で話し合える「居酒屋」のような雰囲気の授業を目指すことが大切であると学ぶことができた。

12 月の第３回校内授業研究会では、前回までの御指導や協議会の内容を生かし、「指導案にねらいとする道徳的価値」を明記するように変更した。道徳的価値の解釈について話し合ってから主発問を立てていたが、これまでは指導案に記載していなかった。しかし、授業のねらいがぶれないためには、やはり指導案に明記し、いつも意識しながら授業を展開することが大切である。教師が価値の理解を深めることで、授業の中で、子どもの発言の何を取り上げ、どの発言を切り返していくのかを判断していくための拠り所にもなる。さらに、板書を発言ごとに書くのではなく、数人の発言内容をまとめて書くようにした。一人一人の発言で教師が板書することで流れを止めてしまう。話したくなって思わずつぶやきがもれてしまう居酒屋のような授業を目指すためには、教師も子どもたちと一緒に考える姿勢で授業を行いたい。そして、「どういうこと？」と子どもたちに問い返しながら黒板に意見をまとめていく。「板書は授業記録ではなく、思考の場とする。」という島先生の御指導の言葉は、新たな気付きを私たちに与えてくれた。

ウ　学年で互いに高め合う道徳授業

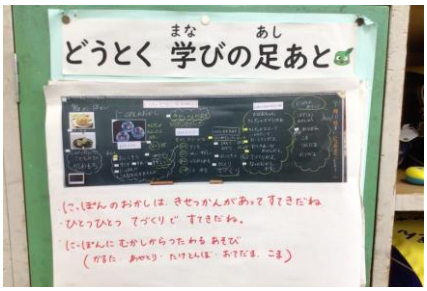
本校では、道徳の授業を隣の学級担任も参観できるようにしている。低学年では専科教員を、中学年以上は一部教科担任制を取り入れることで、互いの道徳の授業が参観できるように時間割を調整している。学年で授業内容を打ち合わせ、互いに見合って、意見交換したり、主任が若手教員を指導しながら授業を行ったりすることができている。互いに参観し合うことで、発問を少し変えたり、発問に対して子どもたちからどんな意見が出されるのか事前に把握したりすることで、よりよい授業づくりに努めている。また、一つの教材を一人の教員が２学級とも授業をするローテーション道徳も時々行っている。ねらいや主発問はどうだったか、どの子どもの発言が学びを深めるチャンスだったか、子どもたちへの切り返しや受け答えはどうしたらよかったか。客観的に見ることで、学ぶことは多い。それを、その日の授業後に話し合うことで、ねらいや主発問の立て方、教材の読み取り、教師の反応といった授業力の向上につながっている。

【若手担任の道徳授業を見守る学年主任】

（２）道徳部の取組

ア　いつでも振り返られる学びの足あと

本校では、学び合いの一つとして、教科で学んだことを「学びの足あと」として教室に掲示し、子どもたちがこれまでの学びを足がかりとしながら学習を進める取組を行っている。道徳では、考えたことや気付いたことを共有するためにはどうしたらよいかを道徳部で話し合い、授業の板書を写真に撮り、教室に掲示していつでも見られるようにした。また、毎時間の板書写真を上に貼り重ねていくことで、以前の内容を振り返ったり、比較したりすることもできる。子どもたちの中には、自分や級友の発言を見返して話題にする姿も見られる。特に低学年では、



【授業板書を印刷した授業の足あと】

長く書くことや覚えていることは難しいが、写真を見返すことで、道徳の学びを心に積み重ねていくことができていると感じている。道徳の時間に、これまでに考えてきたことを話題にしながら話し合う姿が見られるように、さらなる活用方法を模索していきたい。

イ　道徳推進教師からの一言コーナー

毎週月曜日の職員打合せ時に道徳推進教師が中心となって道徳について考える場を設けている。道徳推進教師が参加した研修会の内容を取上げたり、校内で行う道徳教育について取り上げたりしている。また、校外の研修会に参加した際には、道徳推進教師が心に残った言葉や内容について取り上げ紹介することで、学級担任が道徳の授業構成や発問を考える際の一助としている。今年度は、まず始めに道徳教育全体計画の別葉について考えた。本校はこれまで、「時系列で、内容項目と教育活動全体との関連を明らかにした別葉」を作成していたが、情報量が多く、内容項目の関連が分かりにくく、使いにくいという点があった。そこで、道徳推進教師の働きかけをもとに「道徳の時間における全ての価値項目と学校の教育活動全体の関連を明らかにした別葉」へ作り直すこととした。学校全体で作り上げることで、教員一人一人が様々な教育活動と関連付けて道徳の授業に取り組もうと計画を練り直す姿があった。９月初めには、夏休みに参加した三教研道徳部夏季研修会で学んだ板書の例図を、提案者の先生の許可を得て職員に紹介した。６つに分類された板書例は早速、日々の授業の中で活用されている。また、別の研修会で学んだ発問や思考ツールを紹介した際には、「NHK for school」の資料も引用しながら、発問と授業展開の工夫について新たな視点を示すことができた。

（３）にこトレ部の取組

ア　関わる力を育てるにこトレ

【顔を寄せ合って協力して取り組むにこトレ】

「学び合い」におけるペア活動やグループ活動など、子どもたちが様々な形で学びを深める土台にあるのが「関わる力」である。本校では、毎週水曜日の朝学習の時間に「関わる力」を支えるコミュニケーション能力や、ＳＥＬ（ソーシャル・エモーション・ラーニング）の要素を取り入れ、対人関係スキルの定着やよりよい人間関係を築く力を養うことを目指す「にこトレ」に取り組んでいる。子どもたち同士で協力して課題解決する経験を通して、気持ちの表現・話の聴き方に意識を向けたり、互いのことを深く知ったりすることを通して、円滑な人間関係を育成し、日々の学校生活に生かすことを目指している。昨年度は学級・学年の壁を越えて全校縦わり班で行う異学年「にこトレ」にも取り組んでいる。この取組の成果として、本校では、授業を始め、学校生活全般を通して、自分の意見を言うだけでなく、「どう思う？」「どうしてそう考えたの？」という言葉が自然と聞かれ、相手の意見や考えを受け入れ、一緒に課題を解決しようという姿が見られている。

６年生の道徳の実践では、意見を交流する場面で相手の表情を見ながら「なるほど、私は～」と話を続けたり、「ああ、そういうふうに思ったんだ。ぼくはね～」と相手の思いに共感したりしながらやり取りを重ねたりする姿が増えてきた。また、ペア活動など相手を指定しなくても、自ら意見交流する相手を探しながら学びを深めていく姿も見られるようになっている。「にこトレ」で身に付けたスキルを日常生活で活用する場面を設定することで、よりよい人間関係の構築に、役立っている。これからも毎月テーマを変えながら継続していき、何げない会話や授業の中で、互いに認め合っている姿があれば認め、価値付けて、更に奨励していく。

（４）地域とつながる取組

ア　授業参観での親子道徳の取組

【保護者も一緒に考える親子道徳】

年間３回行われる授業参観のうちの１回は全校で道徳の授業を公開している。今年度は、９月の授業参観を「親子道徳」と位置付け、親と子が共に道徳的価値について考える場とした。この授業では、実際に保護者が教室の中へ入り、子どもの横に座って話合いにも参加した。２年生では、「わたしたちの校歌」（Ｃ　よりよい学校生活、集団生活の充実）を教材に、校歌に込められた願いを知ることで、自分の学校を一層好きになり、これから楽しく学校生活を送ろうとする心情を育てることをねらいとした。保護者の中には本校の卒業生も何人かおられ、自分自身が子どもだったころの記憶と重ねながら、子どもたちと一緒に考えた校歌の願いをしみじみと噛みしめている姿があった。事前に家庭で保護者にインタビューをして当日を迎えたことで、校歌に込められた願いについて「みんな仲良く」「元気に育つように」「地域を大切に」などの意見が子どもたちから出た。そして、最後に思いを込めて校歌を歌うことで、保護者からは、「これからも校歌に込められた願いを大事にしながら、のびのびと育ってほしい。」という感想が届けられた。６年生では、「自由行動」（Ａ　善悪の判断、自律、自由と責任）を教材に、「みんなが満足する自由とはどんな自由か。」を考えた。学年全員でホールに入り、隣に保護者が座って、親子で意見交流しながら子どもが考えを発言する形で行った。修学旅行が近いタイミングでの授業に、子どもたちは実生活と重ね合わせながら真剣に考えることができた。授業を通して、「自由は自分勝手ではない。」「何でもできるわけではなく、自由だからこそ責任が伴い、難しい。」ということが理解できた。保護者からは、「修学旅行前に自由について考えられることがとてもよかった。」「今日のことを踏まえて、みんなが楽しく学べる修学旅行にしてほしい。」という感想を聞くことができた。ふだんは参観するだけの保護者も話合いに加わることで、子どもたちだけの考えに留まらず、世代を超えた道徳的価値の交流を図ることができた。また、保護者が一緒に話し合うことで、子どもの考えを後押しする効果も感じられた。子ども自身の道徳的価値に保護者の考えが加わり、積極的に発言する子どもが多くいた。授業後に取った保護者アンケートでは、「自分たちも考えがまとまらず、他の参加者と話し合いながら帰路についた。」と学校外にまで道徳の問いが広がりを見せたり、「自分と子どもの考えが違い、その考えの違いが面白いし、そのような考えがあるのかと感じた。」と保護者の考えにも刺激を与えたりするなど、親子道徳のよさを実感することができた。

イ　地域の力を生かす

【毎月楽しみにしている読み聞かせ】

地域学校協働推進員の方が地域の人材発掘に協力してくれている。それにより、田植・しめ縄飾りづくりといった学年行事や出前授業の講師を紹介していただいて、地域の方と共に授業を行っている。さらに、学年の栽培活動やクラブ活動で、地域の方を講師として定期的に招いた授業では、子どもたちは生き生きと目を輝かせて活動している。また、図画工作科や家庭科などの道具を使う教科や校外学習の見守りなどでは、保護者ボランティアを募っている。保護者の方も積極的に参加してくださり、子どもたちは安心して活動することができる。月に１・２回は、地域の読み聞かせボランティア団体による読み聞かせを行っており、子どもたちは読み聞かせの日を心待ちにしている。

こうした、地域の方と一緒に行う活動は道徳にも生かされている。例えば、３年生では、社会科と総合的な学習の時間で、自分たちの住むみよし市について学んでいる。その中で、公共施設やみよし市で盛んなカヌー競技場を見学する校外学習を行った。校外学習の前には、道徳の時間に、「ふろしき」を通して伝統文化・郷土愛、「みんなのわき水」で規則の尊重について考え合ってから訪問した。「みんなが気持ちよく過ごすためにきまりがあると分かった。」と道徳の振り返りに書いていた子どもたちは、施設を案内してくださる方の話をしっかりと聞き、他の人の迷惑にならないように気を付けながら見学しようと努める姿が見られた。５年生では、総合的な学習の時間に、行政区所有の水田で田植と稲刈りの体験を行っている。「美しい夢―ゆめぴりか―」では、田植の経験や農家の方のお話を元に、郷土を愛する心を深く考えることができた。子どもたちの振り返りからは、「故郷を愛するということは、他のみんなに知ってもらいたいという気持ちになる。」「みんなに自分の故郷を自慢したくなるから、故郷のために努力したくなる。」」といった言葉が振り返りに記述されていた。３・５年生以外の学年でも、これまでに行ってきた地域の力を借りた活動と道徳の関連を見直し、体験の事前事後に効果的に道徳の授業を設定することで、知識と体験を関連付けることができ、道徳性を育む効果を高めることができている。子どもたちは、地域の力を借りて、郷土を愛する心、感謝の心、地域の一員としての自覚、自分にもできるという自己有用感を高めている。

【行政区の水田をお借りした田植】

ウ　道徳だよりで保護者にも

保護者の中には「道徳とは何を学ぶものなのか。」があまり伝わっていない様子も見られた。そこで、今年度は、本校での取組を保護者にも知っていただき、家庭や地域とともに協力して道徳心を育てることができるように、「道徳だより」を発行し、全校の保護者にメール配信している。まずは、道徳教育の考え方や道徳の授業について解説した。９月の授業参観前後からは、道徳性について、島恒生先生の御指導を踏まえながら、分かりやすく解説した。今後も、本校の道徳授業への取組や子どもたちの道徳の様子などを紹介していく予定である。本校の取組を紹介していくことで、「地域の特色を生かした道徳教育の推進」のために、保護者や地域の方の御理解と御協力を求め、家庭でも道徳について会話が生まれるような話題を提供していく。

道徳だより　2025.9.24 号　みよし市立緑丘小学校

４年生「ほんとうに上手な乗り方とは」（内容項目Ａ節度、節制）

ねらい

今回の授業では【身の回りの安全に気を付け、先を見通すなど自分でよく考えて行動することが、安全な生活の実現につながることを理解して、節度ある生活を送ろうとする意欲を育てる】ことをねらいとして授業を進めました。

授業の様子

はじめに「生活していて危ないと思ったことはありますか」と問いかけると「**前方に集中しすぎて、階段でこけそうになった**」「**ダンスのターンの練習で隣の子にぶつかりそうになった**」など生活の中でのヒヤッとしたことを思い出してもらいました。そこで今日の道徳では「**安全に生活を送るために大切な心は何だろう**」というめあてで考え合うことを伝えました。教材を読み、主人公「はるき」さんの気持ちや思いを考えていきました。

教材文の概要

主人公の【はるき】は自転車に乗るのが得意な４年生です。学校で毎年行われる交通安全協会が主催する交通安全教室での説明も途中から上の空で聞いていました。説明の後の自転車を使った練習では、みんなに褒められ、得意になって乗っていました。次の日の土曜日サッカーの練習。自転車に乗り、グラウンドへあわてて向かう途中に事故にあってしまいます。幸いけがも軽く家に帰ることができましたが、多くの人に心配をかけてしまいました。

「はるきさんの自転車の乗り方を見て、みんながロックにすごいなと言っているときのはるきさんの気持ちは？」と問うと「**みんなに見られてうれしい**」「**こんなの簡単**」「**もっとスピードを出してみよう**」などと「はるき」はみんなに褒めてもらいテンションが上がり、得意になっていることに共感できる意見が多く出されました。続いて、事故に遭う直前の場面では「**大丈夫。行ける**」と思ったはるきはどんな思いだったのか」問うと、「**自信があるから行ける**」「**勝手に行けると思い込んでいた**」「**まだ車は遠くに見えているから大丈夫**」など気を付けようという慎重さよりも自分の輪画を通信する姿が意見として出されました。そして、事故を起こして多くの人たちに心配をかけてしまいました。次に「はるきは、交通安全協会の方の言葉（いちばん上手な乗り方は、安全に気を付けて乗ることです）を思い出しながら、どんなことに気が付いたのでしょう」と問いました。「**さらに上手に乗れるように協会の方の話を聞いておけばよかった**」「**安全にゆっくり行けばよかった**」「**車子にのるのはよくない**」など自分の思い込みでよく考えずに判断し、調子に乗って安全に気を付けることができなかった「はるき」を通して安全な生活を送るために大切なことについて考え合うことができました。

【道徳授業のねらいや様子を伝える道徳だより】

エ　地域の皆様への感謝を伝える全校集会「地域ありがとう集会」と道徳

日頃から、地域の方々に登校指導や出前授業、防犯パトロールなど、様々な形で子どもたちの安全・安心な学校生活や豊かな学びを支えていただいている。そこで、御世話になっている皆様をお招きして、全校児童で感謝の気持ちを伝える集会「地域ありがとう集会」を開催している。

本校の子どもたちは、感謝の思いをもつことの尊さや大切さについて学びを深めているが、その心情を行動に移す機会は確保されていなかった。その現状が児

【感謝を伝える「地域ありがとう集会」】

童会で議題に挙がり、「日頃御世話になっている人へ感謝の思いを伝えたい。」という意見にまとまり実施する流れとなった。代表児童が地域の皆様に対して感謝の言葉を述べたり、手作りの感謝状を渡して思いを伝えたりするなど、子どもたちが主体となって準備・運営を行った。子どもたちの感想には「いつもありがとうが言えなかった交通指導員さんにありがとうが言えてよかった。」や「読み聞かせをしてくれている人が僕たちのために時間をかけて本を選んでくれていることが分かった。これからは気持ちを込めて始めと終わりの挨拶がしたい。」といった記述が見られた。「地域ありがとう集会」は、子どもたちが地域とのつながりの大切さを実感し、感謝の心を育む貴重な機会となっている。また、子どもたちにとっても「ありがとう」の気持ちなど、なかなか口に出せない思いを言葉や形にして伝えることの大切さを学び、地域の方々とのつながりの温かさを実感する学びの場にもなっている。今後も学校・家庭・地域が連携しながら、子どもたちの健やかな成長を支えていけるよう取り組んでいきたい。

（５）今後の取組

授業参観で取り組んだ親子道徳は、授業後の保護者アンケートからもとてもよい感触を得た。親子で話すことで、世代を超えた道徳的価値について気付くことができた。実施するだけではなく、道徳通信を活用して、保護者の意見や考えを募り、展開していくことも学びを広げる一つであると考えている。保護者や地域を巻き込んだ道徳の在り方を模索していきたい。

道徳の足跡では、休み時間に子どもたちが板書の写真をパラパラとめくって学びを振り返る姿が見られた。しかしながら、学びを広げたりつなげたりという面においては、まだまだ活用しきれていない。道徳を重ねていく中で、どう考えが変わったか、深まったかということを実感できるようにしていかなければならない。そのために、例えば、外してすぐに授業などの場面で活用できる掲示の仕方など、様々なことを試していきたい。

本校がこれまでに取り組んできた地域との連携や人間関係を構築する取組は、確実に子どもたちの心を育てていると感じている。今後も、地域の力を生かした行事と道徳を関連させ、子どもたちの体験に生かしたり、体験をもとに深く考えたりできるよう、行事と道徳の年間計画との関連を計画的に行っていきたい。また、講師を招聘した道徳授業研究会や校内研修も計画し、実施中である。研究会を生かして授業力のスキルアップに向けて、これからも精進していく。

共通の教材を使って学級のみんなで学び合いながら道徳的価値についての理解を深める。そして、学校行事や地域の方々と関わる活動の中で、さまざまな経験を通して、子どもたちの心を育てていく。今後も、これまでの家庭・地域の力を生かした取組を継続し、道徳の授業を要として教育活動全体で子どもたちの道徳性を養い、よりよく生きようとする子どもたちを育みたい。